

公民分館と高等学校・支援学校の交流会 in 桜塚高校

H24(2012)年 2月 18日(土)10時~12時

参加人数 55人(公民分館(19館)29人、学校 16人、地域 1人、豊中市 9人)

公民分館と高等学校・支援学校の交流会が府立桜塚高校尚和会館で開催され、公民分館の役員と豊中市にある全ての府立高等学校・支援学校の教職員等、合計 55人が参加しました。

交流会では、学校や公民館による地域連携事業の実績や実践事例の紹介に続き、とよなか都市創造研究所から高校生の地域活動への参加促進に向けた調査研究報告を行いました。そして、「高等学校・支援学校と公民分館活動の円滑な連携を推進するために」をテーマに、公民分館と高等学校・支援学校の教諭による活発な意見交換が行われました。

また交流会終了後には名刺交換を行う様子があちこちで見られ、公民分館と高等学校・支援学校がつながる第一歩となりました。

★平成 23 (2011) 年度の事例報告 (豊中市教育委員会中央公民館長)

公民館・公民分館で取り組まれた高等学校・支援学校との連携事業について報告がありました。夏に行われた『米粉でむしケーキを高校生とつくってあそぼう!』や『中学生アートワークショップ “マスク”~もう一人のわたし』等、具体的な事業例について紹介されました。

★各高等学校・支援学校の取り組み事例報告 (府立高等学校・支援学校 8校)

高等学校・支援学校の校長や地域連携担当の教職員から、学校の地域連携の実施体制や、今年度取り組まれた地域連携事業の実施状況等について報告がありました。そして、参加した高校生の喜びの声や学校として地域に期待することや今後の展望等についても紹介されました。



★「若年層(高校生)と地域社会の活性化に向けて」(豊中市政策企画部とよなか都市創造研究所)

平成 21 (2009) ~23 (2011) 年度に行われた高校生の地域社会への参加促進をテーマとした調査研究について報告しました。各地域活動団体や、学校、高校生の意見を基に行われた調査内容や、今後の地域活動の推進に向けた提案等しました。

★意見交換会（ファシリテーター 豊中市地域教育協議会代表 伴野多鶴子さん）

隣接する公民分館と学校で意見交換ができるように、東部、北部、中部、南部に分れてワークショップを行いました。

まず自己紹介からスタートし、現在、地域や学校で取り組んでいることについて情報交換を行いました。そして、それぞれの活動における課題等をふまえ、地域連携事業を進めていくための双方の役割は何か、またどのような仕組みが必要なのか等について意見交換を行いました。



さらに、それぞれのテーブルから出された意見等が発表されました。地域からは「事業のマンネリ化を防ぐために、高校生の企画からの参加を進め、分館活動を活性化していきたい」学校からは「高校生に地域活動に参加してもらいたい」「地域での発表の場が欲しい」という連携を進める声があがりました。しかし一方で、連携を行うためには、「窓口の設置」「定期的な交流」「情報共有」の必要性や、「安全面」「継続性」等の課題もあげられました。そして、地域と学校との定期的な交流会の開催等を通じて、ネットワークづくりを行うことの大切さが確認されました。

😊 当日参加者の感想から ☆

- * 高校生がどのような形で活動しているのかが分かってよかったです。お互いに交流したい内容がわかり、今回のような交流会を行うことの大切さが感じられました。（公民分館）
- * 高校側の思いがよく分って良かったです。今後また（地域連携事業を）お願いしようと思っています。（公民分館）
- * 地域、学校のお互いの情報発信と担当窓口の設置が今後必要です。2～3年に1度は生徒も含めた交流会があるといいです。（公民分館）
- * 高校生の地域への参加は難しいとばかり思っていました。学校が窓口を開いてくださって、お互いに交流の場を持つことで、高校生にとってプラスとなり、しいては社会に出た時にこのことが役に立てればと思っています。次回もこういう会があればぜひ参加し、自分の地域の活性化になればと思っています。（公民分館）
- * 地元の公民分館の方と知り合えたことはまず嬉しいです。皆さんの積極性にふれ、今後交流を進める上で、大きな一歩を踏み出せたと思います。（学校）
- * このような会の定例化をお願いしたいと思います。（学校）
- * 様々な事例を紹介していただき、本校の取り組みに大変参考になりました。ただ、本日の交流会に私立高校の参加もあればいいと思いました。（学校）
- * 来年度の取り組みに向けてとても参考になりました。これから具体的な企画を立てていきたいです。（学校）